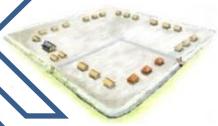




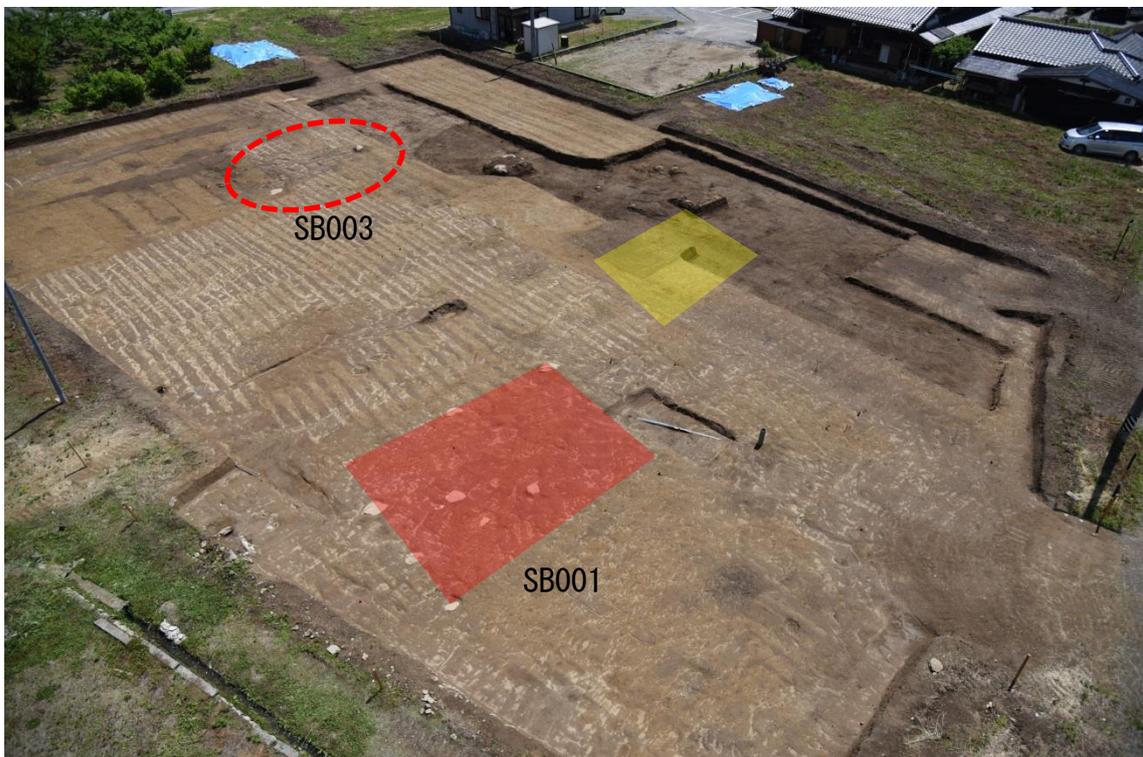
恒川 NEWS



礎石を伴う正倉建物見つかりました。

102次調査開始から2ヶ月ほど経過し、最近では梅雨の悪天候や蒸し暑さと日々戦いながら調査に励んでいます。現在調査区内には3棟分の礎石を伴う正倉建物（礎石建物）が確認されています。東側の1棟は34次確認調査（H7年）で確認された礎石建物ですが、他の2棟は今回新たに発見した礎石建物となります。北側の礎石建物（SB003）は、詳細な範囲はまだ不明ですが、未満水後の近世の天地返しによって石が動かされていることが分かり、より詳細な地中の情報を得るために天地返しの土を取り除いている段階です。南側の礎石建物

（SB001）については、建物周辺の断面から礎石建物に関連すると考えられる面を確認し、平面的に掘り下げを行っています。また、SB001の礎石には火を受けた痕跡があり、その周辺からも炭化米が集中的に出土する箇所が確認できることから、現在確認している礎石建物もしくはその前の段階に建てられた建物が火事になった可能性が予想されます。



想定される礎石建物の配置
（赤：102次確認 黄：34次確認）

しょうそう 正倉とは…？

今回は、改めて「正倉」についてお話をしたいと思います。一般的に「正倉」と言えば、まず思い浮かぶのは奈良にある東大寺の「正倉院」だと思います。皆さんの想像では「正倉院」には、宝物がザクザク入っている…そんなイメージがあるのではないのでしょうか。実際の「正倉院」は、「正倉」という倉庫が集まっている倉庫群のことを指します。東大寺の正倉院も元々は倉庫群の内のひとつでしたが、この1棟のみが現存しています。

「正倉」は律令期における倉庫のことを指し、当時のどの郡衙にも存在していました。郡衙の正倉には租税（律令期の税金）が納められており、税金として徴収した米や稗、粟などの穀物が収蔵されていました。また、これらの穀物は税金としての役割だけでなく、非常時の備蓄食料としての役割も持っていました。



正倉院正倉（埼玉県中宿遺跡）



今回出土した炭化米（^{もみ}籾状）

ちなみに…

炭化米などが出土することから分かるように、正倉は度々火事に見舞われていたようです。なぜ火の気がないところで火事が起こっていたのでしょうか。正倉の火事は「^{じんか}神火」と呼ばれ、律令期初期の政府によって神への不敬による祟りであるとされていました。しかし、だんだんと穀物の盗人による隠ぺい工作や郡衙における政治的な抗争などによる放火であると把握されるようになっていきました。

恒川まいにち見学会！

恒川官衙遺跡の発掘調査では、毎日現場のようすを直接ご覧いただけます。

- ・平日 10 時～15 時（土日祝は休み）
- ・現地で調査員が直接解説します。

ぜひお気軽にお立ち寄りください！

史跡恒川官衙遺跡調査速報 19

令和元年 7 月 24 日発行

飯田市教育委員会

生涯学習・スポーツ課 文化財活用係

調査担当者：坂井勇雄・福井優希

TEL：0265-22-4511（内線：3752）

FAX：0265-22-7969

E-MAIL：bunkazai@city.iida.nagano.jp

HP：https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkazai

